

解 答 速 報

川崎医科大学 数学

2024年1月21日実施

1 O を原点とする座標平面上に 2 点 $A(\sqrt{2}, \sqrt{2})$, $B(2 - \sqrt{3}, 1)$ がある。

(1) 線分 OA の長さは $\boxed{\text{ア}}$ であり、直線 OA と x 軸のなす角を α ($0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$) とすると、 $\alpha = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}\pi$

である。また、直線 OB の方程式は $y = (\boxed{\text{エ}} + \sqrt{\boxed{\text{オ}}})x$ であり、2 直線 OA, OB のなす角を

β ($0 < \beta < \frac{\pi}{2}$) とすると、 $\beta = \frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}}\pi$ である。

(2) 点 A を中心として点 O を通る円を K とし、2 直線 OA, OB と円 K の交点で第 1 象限にあるものをそれぞれ C, D とする。線分 OC, OD および短い方の弧 CD で囲まれる領域を S とする。

(i) 領域 S の面積は $\sqrt{\boxed{\text{ク}}} + \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}\pi$ であり、点 D の座標は

$$\left(\frac{\boxed{\text{サ}}\sqrt{\boxed{\text{シ}}} - \sqrt{\boxed{\text{ス}}}}{\boxed{\text{セ}}}, \frac{\boxed{\text{サ}}\sqrt{\boxed{\text{シ}}} + \sqrt{\boxed{\text{ス}}}}{\boxed{\text{セ}}} \right)$$

である。

(ii) 円 K 上の点 C における接線の方程式は $y = \boxed{\text{ソ}}x + \boxed{\text{タ}}\sqrt{\boxed{\text{チ}}}$ である。また、点 $P(x, y)$ が領域 S を動くとき、 $x + 2y$ の最大値は $\boxed{\text{ツ}}\sqrt{\boxed{\text{テ}}} + \boxed{\text{ト}}\sqrt{\boxed{\text{ナ}}}$ である。ただし、 $\boxed{\text{テ}} < \boxed{\text{ナ}}$ とする。

(iii) 線分 AC, AD および短い方の弧 CD で囲まれた扇形 ACD を、直線 OD の周りに 1 回転してできる立体の

体積は $\frac{\boxed{\text{ニ}}}{\boxed{\text{ヌ}}}\pi^{\boxed{\text{ネ}}}$ である。

解答

解答記号	正解
ア	2
イ ウ π	$\frac{1}{4}\pi$
エ $+\sqrt{オ}$	$2+\sqrt{3}$
カ キ π	$\frac{1}{6}\pi$
$\sqrt{ク}+\frac{ケ}{コ}\pi$	$\sqrt{3}+\frac{2}{3}\pi$

解答記号	正解
$\frac{サ\sqrt{シ}-\sqrt{ス}}{セ}$	$\frac{3\sqrt{2}-\sqrt{6}}{2}$
ソ x +タ $\sqrt{チ}$	$-x+4\sqrt{2}$
ツ $\sqrt{テ}$ +ト $\sqrt{ナ}$	$3\sqrt{2}+2\sqrt{5}$
$\frac{ニ}{ヌ}\pi$ ^ネ	$\frac{4}{3}\pi^2$

解説

(1) $OA = \sqrt{2+2} = 2$ であり、直線 OA の傾きは 1 であるので、 $\alpha = \frac{1}{4}\pi$ である。直線 OB の方程式は

$$y = \frac{1}{2-\sqrt{3}}x \iff y = (2+\sqrt{3})x \text{ であるので、} \tan(\alpha+\beta) = 2+\sqrt{3} \text{ である。}$$

したがって、 $\tan\beta = \tan\{(\alpha+\beta)-\alpha\} = \frac{(2+\sqrt{3})-1}{1+(2+\sqrt{3})\cdot 1} = \frac{1}{\sqrt{3}}$ を得るので、 $\beta = \frac{1}{6}\pi$ である。

別解

$\tan \frac{5}{12}\pi = 2+\sqrt{3}$ を知っていれば、 $\beta = \frac{5}{12}\pi - \frac{1}{4}\pi = \frac{1}{6}\pi$ とすぐに求めることができる。

(2) (i) 円 K の方程式は $(x-\sqrt{2})^2 + (y-\sqrt{2})^2 = 4$ である。

中心角と円周角の関係から $\angle CAD = 2\angle COD = \frac{1}{3}\pi$ が得られる。

領域 S の面積は三角形 OAD と扇形 ACD の面積の和であるので、

$$\frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \sin \frac{2}{3}\pi + \frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \frac{1}{3}\pi = \sqrt{3} + \frac{2}{3}\pi$$

$OB = \sqrt{(2-\sqrt{3})^2 + 1^2} = \sqrt{6}-\sqrt{2}$ であり、

$OD = 2OA \cos \frac{1}{6}\pi = 2\sqrt{3}$ であることから、

$$\vec{OD} = \frac{2\sqrt{3}}{\sqrt{6}-\sqrt{2}}\vec{OB} = \frac{3\sqrt{2}+\sqrt{6}}{2}(2-\sqrt{3}, 1) = \left(\frac{3\sqrt{2}-\sqrt{6}}{2}, \frac{3\sqrt{2}+\sqrt{6}}{2} \right)$$

(ii) $\vec{OC} = 2\vec{OA} = (2\sqrt{2}, 2\sqrt{2})$ であり、点 C における接線は直線 OA に垂直であることから、

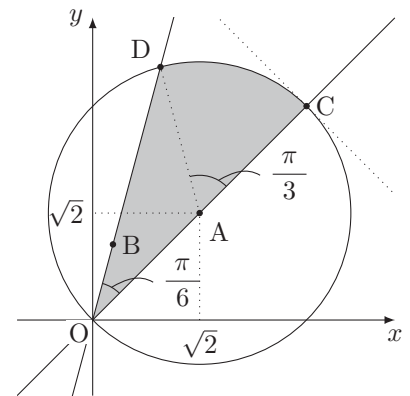
$$y = -(x-2\sqrt{2}) + 2\sqrt{2} \iff y = -x + 4\sqrt{2}$$

である。

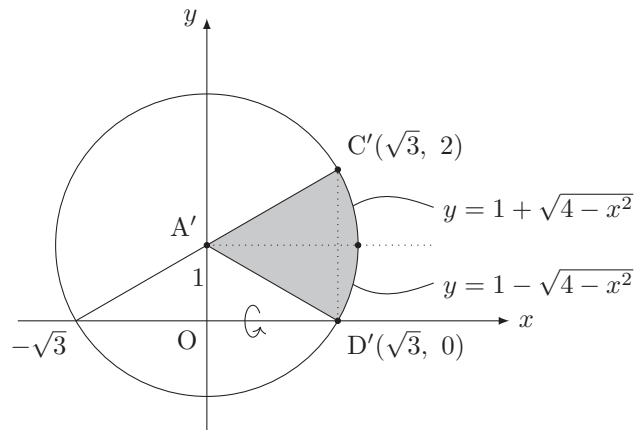
$x+2y = k$ とすると、 k の値が最大となるのは $x+2y-k=0$ が円 K に第 1 象限で接するときである (先の間いから傾きが $-\frac{1}{2}$ の直線は弧 CD と接することがわかる)。点と直線の距離公式から

$$\frac{|3\sqrt{2}-k|}{\sqrt{5}} = 2 \iff k = 3\sqrt{2} \pm 2\sqrt{5}$$

であるので、最大値は $3\sqrt{2}+2\sqrt{5}$ である。



- (iii) 下図のように OD が x 軸上, 円の中心 A が y 軸上となるように図をとりなおして考える. (A, C, D に対応する点を A', C', D' とする)



このとき, 円 K の方程式は $x^2 + (y - 1)^2 = 4 \iff y = 1 \pm \sqrt{4 - x^2}$ である.

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} \cdot 2^2 \pi \cdot 2\sqrt{3} - \frac{1}{3} \cdot 1^2 \pi \cdot \sqrt{3} \times 2 + \pi \int_{\sqrt{3}}^2 (1 + \sqrt{4 - x^2})^2 dx - \pi \int_{\sqrt{3}}^2 (1 - \sqrt{4 - x^2})^2 dx \\ &= 2\sqrt{3}\pi + 4\pi \int_{\sqrt{3}}^2 \sqrt{4 - x^2} dx \\ &= 2\sqrt{3} + 4\pi \left(\frac{1}{3}\pi - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \\ &= \frac{4}{3}\pi^2 \end{aligned}$$

別解

パップス・ギュルダンの定理 ((体積) = (重心の移動距離) \times (面積), つまり $V = 2\pi|x_g|S$) を知っていれば,

$$V = 2\pi \cdot 1 \cdot \frac{2}{3}\pi = \frac{4}{3}\pi^2$$

とすぐに求めることができる.

2 OA = 3, OB = 2, $\cos \angle AOB = \frac{1}{6}$ の平行四辺形 OACB があり, $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$ とする。

(1) \vec{a} と \vec{b} の内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ は ア であり, $|\vec{AB}| = \sqrt{\text{イウ}}$ である。また, 平行四辺形 OACB の面積は $\sqrt{\text{エオ}}$ である。

(2) 点 O から対角線 AB に垂線を引き交点を D とすると, $\vec{OD} = \frac{\text{カ}}{\text{キク}} \vec{a} + \frac{\text{ケ}}{\text{コサ}} \vec{b}$ である。また, 直線 OD と辺 BC の交点を E とするとき, BE : EC を最も簡単な整数の比で表すと シ : ス である。

(3) (2) のとき, 3 点 O, A, D を通る円を K とし, その中心を F とする。円 K と直線 OC の交点で O でない方を G, 円 K と直線 DF の交点で D でない方を H, 円 K と直線 OB の交点で O でない方を I とする。このとき,

$\vec{OG} = \frac{\text{セ}}{\text{ソ}} \vec{a} + \frac{\text{タ}}{\text{チ}} \vec{b}$ であり, 三角形 OAD の面積を S, 五角形 OHAGI の面積を T とする

と, $\frac{S}{T} = \frac{\text{ツテ}}{\text{トナニ}}$ である。

解答

解答記号	正解
ア	1
$\sqrt{\text{イウ}}$	$\sqrt{11}$
$\sqrt{\text{エオ}}$	$\sqrt{35}$
$\frac{\text{カ}}{\text{キク}} \vec{a} + \frac{\text{ケ}}{\text{コサ}} \vec{b}$	$\frac{3}{11} \vec{a} + \frac{8}{11} \vec{b}$

解答記号	正解
シ : ス	3 : 5
$\frac{\text{セ}}{\text{ソ}} \vec{a} + \frac{\text{タ}}{\text{チ}} \vec{b}$	$\frac{2}{3} \vec{a} + \frac{2}{3} \vec{b}$
$\frac{\text{ツテ}}{\text{トナニ}}$	$\frac{48}{103}$

解説

$$(1) \vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{OA}| |\vec{OB}| \cos \angle AOB = 3 \cdot 2 \cdot \frac{1}{6} = 1.$$

$$\begin{aligned} |\vec{AB}|^2 &= |\vec{OB} - \vec{OA}|^2 \\ &= |\vec{OB}|^2 - 2\vec{OB} \cdot \vec{OA} + |\vec{OA}|^2 \\ &= 4 - 2 + 9 = 11 \end{aligned}$$

したがって $|\vec{AB}| = \sqrt{11}$. また平行四辺形 OACB の面積は

$$\begin{aligned} \triangle OAB \times 2 &= \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2} \\ &= \sqrt{9 \cdot 4 - 1} = \sqrt{35} \end{aligned}$$

(2) D は直線 AB 上にあるので $\vec{OD} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b}$ とおける. $OD \perp AB$ より

$$\begin{aligned} \vec{OD} \cdot \vec{AB} = 0 &\iff \{(1-t)\vec{a} + t\vec{b}\} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = 0 \\ &\iff -(1-t)|\vec{a}|^2 + (1-2t)\vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 = 0 \\ &\iff 11t - 8 = 0 \\ &\iff t = \frac{8}{11} \end{aligned}$$

したがって $\vec{OD} = \frac{3}{11}\vec{a} + \frac{8}{11}\vec{b}$.

また $\vec{OD} = \frac{8}{11}\left(\frac{3}{8}\vec{a} + \vec{b}\right)$ と変形でき, E は直線 BC 上にあることから $\vec{OE} = \frac{3}{8}\vec{a} + \vec{b}$, すなわち $\vec{BE} = \frac{3}{8}\vec{BC}$ であることがわかるので, $BE : EC = 3 : 5$ である.

(3) $\angle ODA = \frac{\pi}{2}$ なので, 円 K は線分 OA を直径とする円である. よって $\angle OGA = \frac{\pi}{2}$ である. G は直線 OC 上なので $\vec{OG} = k\vec{OC}$ とおくと

$$\begin{aligned} \vec{AG} \cdot \vec{OC} = 0 &\iff (k\vec{OC} - \vec{OA}) \cdot \vec{OC} = 0 \\ &\iff k|\vec{OC}|^2 - \vec{OA} \cdot \vec{OC} = 0 \end{aligned}$$

となる. ここで

$$\begin{aligned} |\vec{OC}|^2 &= |\vec{a} + \vec{b}|^2 \\ &= |\vec{a}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 \\ &= 9 + 2 + 4 = 15 \\ \vec{OA} \cdot \vec{OC} &= \vec{a} \cdot (\vec{a} + \vec{b}) \\ &= |\vec{a}|^2 + \vec{a} \cdot \vec{b} \\ &= 9 + 1 = 10 \end{aligned}$$

であるから, $15k - 10 = 0 \iff k = \frac{2}{3}$ を得るので $\vec{OG} = \frac{2}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$.

$$\triangle OAB = \frac{\sqrt{35}}{2} = U \text{ とおく. } \triangle OAC = \triangle OBC = U \text{ である. まず}$$

$$S = \triangle OAD = \frac{AD}{AB} \triangle OAB = \frac{8}{11} U$$

である. また, 五角形 OHAGI を線分 OA, OG で 3 つの三角形に分割し, それぞれの面積を考えると以下のようになる.

- 線分 OA, DH がいずれも円 K の直径であることから, 四角形 OHAD は長方形である. したがって

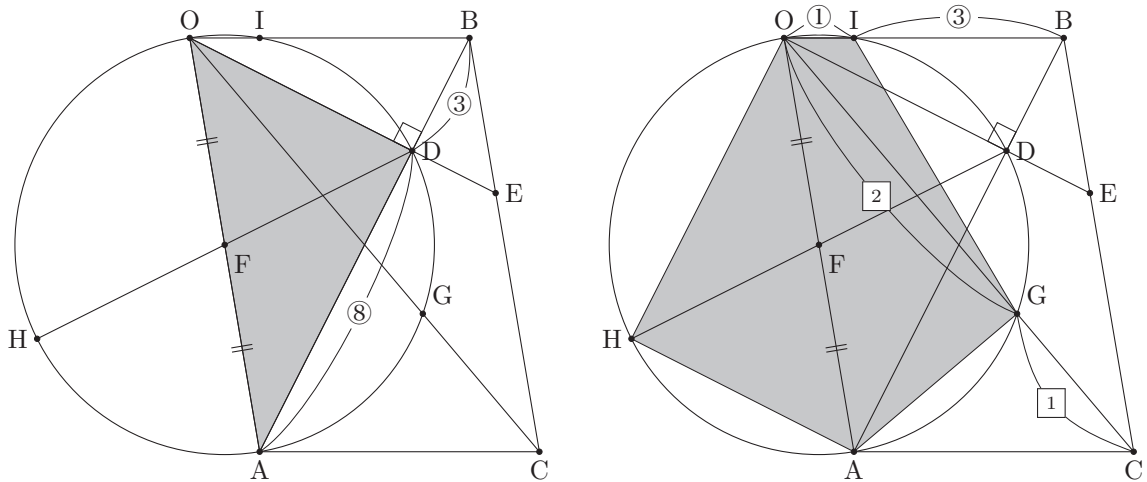
$$\triangle OAH = S = \frac{8}{11} U$$

- $\vec{OG} = \frac{2}{3} \vec{OC}$ より, $\triangle OAG = \frac{2}{3} U$
- $\angle OIA = \frac{\pi}{2}$ なので, $OI = OA \cos \angle AOI = 3 \cdot \frac{1}{6} = \frac{1}{2}$ であるから,

$$\triangle OGI = \frac{OI}{OB} \cdot \frac{OG}{OC} \triangle OBC = \frac{\frac{1}{2}}{2} \cdot \frac{2}{3} U = \frac{1}{6} U$$

以上から,

$$\frac{S}{T} = \frac{\triangle OAD}{\triangle OAH + \triangle OAG + \triangle OGI} = \frac{\frac{8}{11} U}{\frac{8}{11} U + \frac{2}{3} U + \frac{1}{6} U} = \frac{48}{103}$$



3 自然数 n に対して、定義域を $x \leq 1$ とする 2 つの関数

$$f_n(x) = x(1-x)^n, g_n(x) = x^2(1-x)^n$$

を定める。

(1) $f_2(x)$ の導関数は、

$$f_2'(x) = (x - \boxed{\text{ア}}) (\boxed{\text{イ}}x - \boxed{\text{ウ}})$$

であり、 $f_2(x)$ の極大値は $\frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オカ}}}$ である。また、 $g_2(x)$ の極大値は $\frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{クケ}}}$ である。

(2) すべての自然数 n に対して、

$$f_n(x) - g_n(x) = f_{n+\boxed{\text{コ}}}(x)$$

が成り立つ。

(3) $f_n(x)$ の導関数は、

$$f_n'(x) = \boxed{\text{サ}} \left\{ (n + \boxed{\text{シ}})x - \boxed{\text{ス}} \right\} (1-x)^{n-1}$$

であり、 $g_n(x)$ の導関数は、

$$g_n'(x) = \boxed{\text{セ}} \left\{ (n + \boxed{\text{ソ}})x - \boxed{\text{タ}} \right\} x(1-x)^{n-1}$$

である。

(4) 2 つの曲線 $y = f_n(x)$, $y = g_n(x)$ で囲まれた図形の面積を S_n とすると、

$$S_n = \frac{\boxed{\text{チ}}}{(n + \boxed{\text{ツ}})(n + \boxed{\text{テ}})}$$

である。ただし、 $\boxed{\text{ツ}} < \boxed{\text{テ}}$ とする。

また、関数 $f_n(x)$ が極大値をとるときの x の値を p_n とおくと、

$$\sum_{n=1}^{\infty} p_n S_n = \frac{\boxed{\text{ト}}}{\boxed{\text{ナニ}}}$$

である。

解答

解答記号	正解
$(x - \text{ア})(\text{イ}x - \text{ウ})$	$(x - 1)(3x - 1)$
$\frac{\text{エ}}{\text{オカ}}$	$\frac{4}{27}$
$\frac{\text{キ}}{\text{クケ}}$	$\frac{1}{16}$
コ	1

解答記号	正解
サ $\{(n + \text{シ})x - \text{ス}\}$	$-\{(n + 1)x - 1\}$
セ $\{(n + \text{ソ})x - \text{タ}\}$	$-\{(n + 2)x - 2\}$
$\frac{\text{チ}}{(n + \text{ツ})(n + \text{テ})}$	$\frac{1}{(n + 2)(n + 3)}$
$\frac{\text{ト}}{\text{ナニ}}$	$\frac{1}{12}$

解説

(1) $f_2(x) = x(1 - x)^2 = x(x - 1)^2$ より

$$f_2'(x) = (x - 1)^2 + 2x(x - 1) = (x - 1)(3x - 1)$$

増減表より、極大値は $f_2\left(\frac{1}{3}\right) = \frac{4}{27}$ である.

また、 $g_2(x) = x^2(1 - x)^2 = x^2(x - 1)^2$ より

$$g_2'(x) = 2x(x - 1)^2 + 2x^2(x - 1) = 2x(x - 1)(2x - 1)$$

増減表より、極大値は $g_2\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{1}{16}$ である.

x	...	$\frac{1}{3}$...	1
$f_2'(x)$	+	0	-	0
$f_2(x)$	↗	$\frac{4}{27}$	↘	0

x	...	0	...	$\frac{1}{2}$...	1
$g_2'(x)$	-	0	+	0	-	0
$g_2(x)$	↘	0	↗	$\frac{1}{16}$	↘	0

(2)

$$\begin{aligned} f_n(x) - g_n(x) &= x(1 - x)^n - x^2(1 - x)^n = x(1 - x)^n(1 - x) \\ &= x(1 - x)^{n+1} = \mathbf{f_{n+1}(x)} \end{aligned}$$

(3)

$$\begin{aligned} f_n'(x) &= (1 - x)^n + x \cdot \{-n(1 - x)^{n-1}\} \\ &= -(1 - x)^{n-1}\{(x - 1) + nx\} = -\{(n + 1)x - 1\}(1 - x)^{n-1} \end{aligned}$$

また,

$$\begin{aligned} g_n'(x) &= 2x(1 - x)^n + x^2 \cdot \{-n(1 - x)^{n-1}\} \\ &= -x(1 - x)^{n-1}\{2(x - 1) + nx\} = -\{(n + 2)x - 2\}x(1 - x)^{n-1} \end{aligned}$$

(4) $f_n(x) = g_n(x) \iff f_{n+1}(x) = 0$ より、 $x = 0, 1$ となる.

$0 \leq x \leq 1$ において $f_n(x) - g_n(x) = f_{n+1}(x) \geq 0$ なので,

$$S_n = \int_0^1 \{f_n(x) - g_n(x)\} dx = \int_0^1 f_{n+1}(x) dx = \int_0^1 x(1 - x)^{n+1} dx \dots \textcircled{1}$$

である。ここで、 $1-x=t$ とおくと、 $dx=-dt$ 、 $x:0 \rightarrow 1$ のとき $t:1 \rightarrow 0$ であるから、

$$\begin{aligned} \textcircled{1} &= \int_1^0 (1-t)t^{n+1}(-dt) \\ &= \int_0^1 (t^{n+1} - t^{n+2})dt \\ &= \left[\frac{1}{n+2}t^{n+2} - \frac{1}{n+3}t^{n+3} \right]_0^1 \\ &= \frac{1}{n+2} - \frac{1}{n+3} \\ &= \frac{1}{(n+2)(n+3)} \end{aligned}$$

あるいは部分積分を用いて、

$$\begin{aligned} \textcircled{1} &= \left[-\frac{1}{n+2}x(1-x)^{n+2} - \frac{1}{(n+2)(n+3)}(1-x)^{n+3} \right]_0^1 \\ &= \frac{1}{(n+2)(n+3)} \end{aligned}$$

としてもよい。

また、 $f_n'(x) = 0 \iff x = \frac{1}{n+1}$ 、 1 であり、増減表より $x = \frac{1}{n+1}$ のとき $f_n(x)$ は極大となる。

x	\cdots	$\frac{1}{n+1}$	\cdots	1
$f_n'(x)$	$+$	0	$-$	0
$f_n(x)$	\nearrow	極大	\searrow	0

よって $p_n = \frac{1}{n+1}$ なので、

$$\begin{aligned} \sum_{n=1}^{\infty} p_n S_n &= \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{1}{(k+1)(k+2)(k+3)} = \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{(k+1)(k+2)} - \frac{1}{(k+2)(k+3)} \right\} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \left\{ \left(\frac{1}{2 \cdot 3} - \frac{1}{3 \cdot 4} \right) + \left(\frac{1}{3 \cdot 4} - \frac{1}{4 \cdot 5} \right) + \cdots + \left(\frac{1}{(n+1)(n+2)} - \frac{1}{(n+2)(n+3)} \right) \right\} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{2 \cdot 3} - \frac{1}{(n+2)(n+3)} \right\} \\ &= \frac{1}{12} \end{aligned}$$

別解

ベータ関数 $B(x, y) = \int_0^1 t^{x-1}(1-t)^{y-1} dt$ において、 x, y が自然数のとき $B(x, y) = \frac{(x-1)!(y-1)!}{(x+y-1)!}$ が成り立つことを利用すれば（一般にはガンマ関数を用いて $B(x, y) = \frac{\Gamma(x)\Gamma(y)}{\Gamma(x+y)}$ と表せる）

$$\begin{aligned} S_n &= \int_0^1 f_{n+1}(x) dx \\ &= B(2, n+2) = \frac{1!(n+1)!}{(n+3)!} \\ &= \frac{1}{(n+2)(n+3)} \end{aligned}$$

と求められる。

講評

1 [図形と方程式, 数学Ⅲの積分] (やや易～やや難)

(2)(ii) までは, 図形と方程式の典型問題であり, 落とせない. $\frac{5}{12}\pi = 75^\circ$ についての \sin, \cos, \tan の値を覚えていと瞬時に答が出る設問があった. 本学のみならず, 医学部の入試ではもはや暗記事項かも知れない. 最後の体積は, 円弧の部分の回転体と円錐とに分けるとよいが, パップス・ギュルダンの定理を使うとすぐに答が出る.

2 [平面ベクトル] (標準)

平行四辺形を題材とした典型問題であった. 垂線を下ろす処理や, 直角三角形の外接円についての知識は基本であり, (3) の前半までは落とせない. (3) の後半の面積比では, 五角形を複数の三角形に分割するとよいが, 各三角形について丁寧に考える必要があり, 制限時間内に正解を出すのは難しかったかもしれない.

3 [数学Ⅱと数学Ⅲの微積分, 数列の極限] (標準)

関数の指数部分に文字 n が含まれてはいるが, 問われていることはどれも基本的であり, できれば完答したいところである. (4) で, 面積を求める際の部分積分, また極限を求める際の部分分数分解の処理が正しくできたか, がポイントだろう.

ここ数年と比較すると易化している. 大問 1, 2 それぞれの最後の設問は難しいが, それ以外は落とせない問題が多い. 1次合格の目標は 75%.

メルマガ無料登録で全教科配信! 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで

<p>医学部進学予備校 メビオ ☎0120-146-156 https://www.mebio.co.jp/</p>	<p>医学部専門予備校 heart of medicine YMS 医学部専門予備校 英進館メビオ 福岡校</p>	<p>☎03-3370-0410 https://yms.ne.jp/ ☎0120-192-215 https://www.mebio-eishinkan.com/</p>	 登録はこちらから
--	---	--	---

<p>合格への最後の一步!</p>	<p>受講 無料</p>	<p>諦めない受験生をメビオは応援します</p>	<p>参加 無料</p>
<p>金沢医大 1/30 (火) 前日特別講座 18:00~18:30 ホテルフクラシア大阪ベイ</p>	<p>医学部後期入試 ガイダンス 2/4 (日) 14:00~14:30 大阪梅田 ツインタワーズ・ノース</p>		

詳しくは Web またはお電話で